

令和2年 第7回

京田辺市教育委員会定例会

令和2年7月15日

令和2年第7回教育委員会定例会議録

1 日時・場所

令和2年7月15日（水）午前10時
京田辺市役所305会議室

2 出席委員

教育長	山岡 弘高
委員（教育長職務代理者）	西村 和巳
委員	藤原 孝章
委員	上村 真代
委員	伊東 明子

3 出席職員 職・氏名

教育部長	藤本 伸一
教育指導監	中井 達
教育部副部長	鈴木 一之
教育総務室担当課長	北尾 卓也
こども・学校サポート室総括指導主事	草野 謙太郎
学校教育課長	藤井 勝久
社会教育課長	佐路 清隆
事務局 教育総務室総務係長	出島 ケイ

（兼務職記載省略）

4 日程

- 1 開会宣言
- 2 議事日程報告
- 3 日程第1 教育行政報告
- 4 日程第2 議案第53号 京田辺市立図書館協議会委員の委嘱について
- 5 閉会宣言

1 開会宣言

教育長 令和2年第7回京田辺市教育委員会定例会を開会します。出席数は5名で、定足数を満たしています。

2 議事日程報告

教育長 本日の議事日程は、さきにお配りしているとおりです。

3 日程第1 教育行政報告

教育長 日程第1、教育行政報告を議題とします。事務局から報告願います。

教育部長 前定例会後の行政報告をします。

- 6月18日 市議会文教福祉常任委員会
- 30日 市議会本会議(採決等)
- 7月 2日 山城教育局長ヒアリング
- 5日 市文化協会七夕のタベ
- 7日 日本公衆電話会こども手帳贈呈式
- 9日 田辺高校企業交流会
社会教育委員会議
- 11日 第55回市民文化祭第1回実行委員会
- 13日 ファミーマートFC(株)ストリーム 感謝状贈呈式

議会報告について、6月10日から6日間、市議会一般質問が行われました。また、6月18日に文教福祉常任委員会が開催されました。

教育長 これから質疑に入ります。質疑はありませんか。
(「なし」と言う者あり)

教育長 質疑なしと認めます。これで日程第1、教育行政報告を終わります。

4 日程第2 議案第53号 京田辺市立図書館協議会委員の委嘱について

教育長 日程第2、議案第53号からは人事案件となりますので、会議の公開について、京田辺市教育委員会会議規則第17条第1項第3号に規定する「個人に関する情報を含み、会議を公開することにより個人の権利利益を害するおそれのあること」に該当すると思われますので、会議を公開しないこととしてよろしいですか。
(「異議なし」と言う者あり)

教育長 異議なしとのことですので、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第14条第7項の規定により、会議を非公開とします。
(出入口施錠、以下非公開)
(議案第53号 原案の通り可決)

(出入口解錠)
(以下、非公開終了)

教育長 本日予定していた議事日程は以上です。ほかに報告事項等ありませんか。

教育総務室担当課長 学校再開後の様子について、こども・学校サポート室総括指導主事が現地を回って資料を整えたので報告します。

こども・学校サポート室総括指導主事 授業の様子ですが、児童・生徒はおおむね1メートルの間を空けて授業を進めています。授業中はどの学校もとても静かで、先生が質問することに答えるという形です。普段なら話し合い活動を行いますが、今は講義的な進め方が多くなっています。また、電子黒板、大型テレビを効果的に使っている印象があります。

体育の授業では、基本的な動作の運動が多く行われている時期でした。今はレベル1と大分緩和された状態になっていますので、試合形式の体育も行われるようになってきています。中学校の体育ですが、同じように間を取りながら進んでいます。

給食では、給食係が手指消毒を行い、給食係でないものは手をしっかりと洗って給食の時間に入っています。給食係、配膳の人数ができるだけ減らす形で行っています。密を避けるような工夫がされていました。食べている時は静かです。

片付け時に給食室に運ぶルートが決まっていて、学年やクラスができるだけ重ならないようにして給食室の前までお盆やお皿、食缶を運んでいるということでした。

次に、中学校の部活動の様子です。8月8日、9日に綴喜大会の代替大会が行われるということで、今は土日のクラブも再開していますし、山城の範囲なら練習試合もいいとなっています。文化系クラブも外で離れて練習しています。

次に、各校の工夫です。廊下や教室の前に啓発する掲示物がよく貼られていました。職員室に入る順番を示す足型が貼られ、ここに順番に並んで1人終わったら1歩前に進むという感じです。保健室でも行っています。児童が3つの密を避けていこうという啓発のポスターを作り自分たちの教室に貼っています。

以上、どの学校もすごく落ち着いて生活していました。10月、11月に市教委からの計画訪問を考えておりますので、お時間が合えば是非行っていただきたいと思います。

教育長 総括指導主事から学校の様子を説明しましたが、何かご質問があれば。

藤原委員 いつ頃学校を訪問したのですか。

こども・学校サポート室総括指導主事 再開して1週間後の6月7日から、今週の月曜日7月13日までです。

藤原委員 エアコンを入れているときの教室の様子はどうですか。

こども・学校サポート室総括指導主事 エアコンを入れて窓を開けるという形です。

藤原委員 エアコン効かないですよね。

こども・学校サポート室総括指導主事 全く効かないということはなかったです。ただ、気温が高い日は少し暑さを感じることもありました。

藤原委員 空気の流れを作らないといけないと聞いていますが。

こども・学校サポート室総括指導主事 基本は対角線で窓を開けて、両サイドは必ず開けています。

藤原委員 これから梅雨明けになると結構暑くなるので、そのときが心配ですね。

こども・学校サポート室総括指導主事 今通知を出しているのが、どうしても効きが悪い場

合は窓を全部閉めてエアコンをかけてください。ただし、30分に1回程度は換気をしてくださいという内容です。

藤原委員 45分なり50分の授業中に5分ほど休憩して空気を入れ換えるということも対応していく必要があるのでは。

こども・学校サポート室総括指導主事 例えば何かプリントをやっている時間に開けるとか、板書していても一回止めて窓開けてすぐ話を続ければ、できないことはないと思います。

藤原委員 教職員は共通認識がありますか。

こども・学校サポート室総括指導主事 学校に通知を出しているので、伝わっているものと思います。

教育長 学校再開のときはレベル2を想定して対策マニュアルを作りました。ただ、本市でずっと感染者がおらず、全国的にも感染者数が減ってきて、経済活動も再開されてきている状況で、学校の活動も少し緩和しようということで、7月からマニュアルを改定しました。その中でエアコンについても、前は完全に開けた状態で換気でしたが、状況によっては閉めた状態で、ただし30分に1回数分程度の換気を行うというものに変更しました。部活動も、それまでは対外試合や、土日も禁止でしたが、土日も7月4日から再開していますし、対外試合、練習試合も他の市町と合わせて山城地方までは可に、府立の方はもう少し緩和していますので、7月からはレベル1に合わせた形になっています。エアコンについては開けっ放しにするとフル回転し、デマンドに影響するということで、複数校から相談があります。

藤原委員 電流が弱くなるということですか。

教育長 そうです。窓を開けるとフル稼働します。一旦引っかかると30分ぐらいストップするので、そうならないように、設定温度や窓の開閉で何とかしのぎますが、これからさらに暑くなるとどうかというのあります。

藤原委員 エアコンを設置するときに電流の容量をあげておかなかったのですか。

学校教育課長 デマンドといいまして、一定の数値を超えると止まるようになっています。無制限であると、例えば1度上げるだけで、1校月に10万円ぐらい上がり、一旦そうなると、冬でも夏でも関係なくずっとその値段になります。そうならないように、電源を入れる際も一斉ではなく順番に入れるとか、電源のオンオフに一番電気代がかかるので、回しっぱなしの中で換気する等、工夫をお願いしています。

藤原委員 電気代の問題ですか。

学校教育課長 あと、機種によってはよく落ちるものもあります。

藤原委員 体育の授業の後とか、熱中症の問題もあり、エアコンは必要ですので。

学校教育課長 部屋に子どもがいないから切っておくのではなく、温度を上げてでも入れておくという工夫はしています。

伊東委員 普賢寺小学校は体育館に扇風機があったのを覚えてますが、ほかの小中学校に扇風機等は設置されていますか。

学校教育課長 大型扇風機で空気の循環ができるので設置していますし、防災の関係で避難所となることから大型扇風機を用意してもらっています。普段から使っていいということ

ですので利用しています。

上村委員 学校の雰囲気や生徒の感じが再開当初と今とでは違いがあるのではと思いますが、どうですか。

こども・学校サポート室総括指導主事 6月の末ぐらいから訪問すると全員ではないですが少し疲れが出てきているように感じました。

教育長 その疲れというのはどんな感じですか。

こども・学校サポート室総括指導主事 6月の最初は長期休業明けで久々に友達に会えたという感じでしたが、その後、行事もあまりなくずっと授業が続いておりますので、行事等があるとアクセントになったのかなと思います。

伊東委員 授業の過密や生活の変化で子どもが疲れているということですか。

こども・学校サポート室総括指導主事 友達と遊べない、距離を取らないといけないという中、子ども達もそういったことを意識しています。

教育長 数か月間のブランクがありますので、結構負担になっているところはあるかと。

また、非常に暑い中、真面目でマスクを外しませんから、8月まで体調管理や、学習もあまり詰め込みにならないように、学校でうまく授業を進めてもらう必要があると思います。

西村委員 学習面や環境面は十分連携を取りながら進めさせていただきたい。ナイロンの手袋や消毒液などは確保されていますか。

学校教育課長 アルコールは少ないです。徐々には出回ってきておりますが、基本的に子どもたちについては石けんで流水手洗いを指導しています。いろいろ工夫しながら使用しています。

西村委員 足りない状況ではないということですね。また、3月から学校が休校になり、昨年度末からこの6月の分の教育課程の内容を変更した計画で進んでいると思いますが、今始まって1か月ぐらいということで、どんな進み具合で、年度末までにどこまで進めるのか。あと、再開された後に警報で休みがあったと思うのですが、変更のプログラムがさらに変更になって、現場の方から大変だとかいう声はないですか。

こども・学校サポート室総括指導主事 教育課程については、再開前に行事の精選をしており、再開後は積み残しのところから入っていくということで、年間で全てのことは何とかいけそうだという計画で進んでいます。

上村委員 1コマを短くして7時間授業にするというのが何日間か今後もあるようで心配はあります。テストも頻繁に行われていて、再テストで居残りがあつたり、帰ってくるのが5時前という日もありました。先生も本当に一生懸命しないといけないという想いがあるのかなと思います。

西村委員 小学校は新しい教科書で内容が増えている一方で、授業時間数は劇的に減っている。先生方は一生懸命やっていただいているし、子どもたちも頑張っていると思いますが、オーバーワークになっていないか、そして本当にその計画で学力が身についているのか心配です。塾ではZ o o m等を活用し、休業中からやっているが、公立学校のすべての家庭で学習が身についているのか不安です。

こども・学校サポート室総括指導主事 今後また警報が統ければ対策は必要になるかと思いま

す。また、学習の定着については、授業を進め、テストで確認する方法になると考えています。

藤原委員 来週には梅雨明けで、急に暑くなると思います。6時間目までやると3時、4時近くになるのでかなり疲れてくると思います。またこれから通知簿を書いたり教員の負担はかなり増えると思いますが、神奈川県では短縮授業をしていると聞きます。教育課程の問題があるので難しいとは思いますが、その辺りは学校を回られていかがですか。

こども・学校サポート室総括指導主事 スクールサポートスタッフという制度があり、活用されている学校が多いです。

藤原委員 8月の下旬から2学期が始まりますが、当面短縮にするとかそういうことは何か考えておられますか。

こども・学校サポート室総括指導主事 2学期最初の3日ほど短縮時間を組んでおり、夏休み前も面談週間で短縮になっています。

藤原委員 中学校の期末テストはいつ頃になりますか。

こども・学校サポート室総括指導主事 来週の4連休の前、21日、22日です。

藤原委員 その後通知簿を作成するのですか。

こども・学校サポート室総括指導主事 中学校は1学期の成績を出さないです。前後期のような形です。小学校は出すということです。

藤原委員 給食はいつまでですか。

こども・学校サポート室総括指導主事 7月31日までです。8月1日からは午前中授業です。

西村委員 夏休みは8日から2週間ですね。先生方はだいたい1週間休まれるのですか。

教育指導監 例年、休暇促進日という1週間出勤しない日を設けています。今年度も同様に8月11日から14日の4日間については、先生方は一切出勤しません。中学校の部活動もしないということで申合せしています。

例年夏季休業中にしていた情報教育の研修等は中止しています。転勤や初任者の先生方の研修も9月に延期し、極力この2週間は休みとしています。

上村委員 先生はマスクをされていますが、先生の声は聞こえていますか。また、表情が分からぬと思いますが、低学年の子どもに対しては先生がフェイスシールドを着用している学校もありますが、どうされていますか。

こども・学校サポート室総括指導主事 フェイスシールドをしてもマスクをしないとあまり効果がないようです。ただ難聴学級の担任の先生、保健室の先生あたりはそういう形の対応もあります。基本的に教室が静かなので、声は意外と聞こえます。

教育長 フェイスシールドは医療従事者が明らかに感染している人に対しての診察とか、場合によっては体調不良の児童・生徒に保健室で養護教諭が対応するときには効果的ですが、特に児童・生徒にはストレスになったり、使い方によってはけがをする可能性があります。大阪の小児科医師会も学校では使用を勧めていないとか、マスクした上でのフェイスシールドは、目からの感染を防ぐのが主な目的ですので、基本的には勧めていません。どうしても必要な場合は、マスクを外してフェイスシールドをして、間隔をしっかり取った上で

の使用であれば可と校長会では言っています。

藤原委員 保育・幼稚園の様子も報告していただけますか。幼児教育の場合はどうしても密着しますよね。

こども・学校サポート室総括指導主事 あまり把握できていませんが、どうしてもくっついてしまう感は否めないです。今度、園に伺いますので、可能であれば写真等を準備したいと思います。

教育長 幼児では、マスクは逆に危ないということも報告されています。小さい子は瞬間的に密になるような接触もしますが、長時間にならないようかなり苦労されています。

藤原委員 これから感染した教職員や子どもが出てきた場合、学級閉鎖程度で対応するのか学校閉鎖になるのか、リスク管理はどうですか。

こども・学校サポート室総括指導主事 そのときの状況や濃厚接触者を調査し、消毒についても基本的には保健所の指導を仰ぎますが、場合によっては学校薬剤師さんや、市の担当部署とも連携を取ることとなります。

西村委員 現状で、学校薬剤師さんや学校医さんと、各学校や教育委員会では相談されたりしていますか。

学校教育課長 学校薬剤師さん、学校医さんとの連携はしていますが、大変お忙しく、6月末に終えなければならない健康診断が9月にならないと難しいとの申出です。

教育長 ほかに連絡事項等ありますか。

教育総務室担当課長 教育委員懇話会について、4月にいろいろご意見いただき、討議内容を事務局で集約して方向性等をまとめるということでした。

主な内容は、京田辺市の直面する課題として児童・生徒数の偏在について話があり、校区の再編よりも、教育や地域の特色を出して特認校的な対応ができるかというような意見がありました。

京田辺市の児童・生徒数の状況としては、全国的な少子化の流れに伴い減少している学校があります。主に大住小学校、田辺東小学校、培良中学校がその傾向が強く、一方で、大都市圏への交通の利便性の高さから、子育て世代を中心に人口流入も続いており、児童数が非常に多くなっている学校もあります。具体的には田辺小学校、薪小学校、三山木小学校、そして田辺中学校となります。児童・生徒数が増加している学校については教室の不足が懸念され、減少している学校については余裕教室が発生しているという問題があります。

これまで仮設校舎等を整備するといったハードウエアによる対症療法的な対策が多かったのですが、今後は、特認校制度を活用する中で、児童・生徒数が少ない学校に特色のある教育実践を行い、校区外の児童・生徒の通学を促すというような方向性が必要になってくるのではないかと考えています。

実際、京田辺市の取組として、普賢寺小学校では校区内の児童・生徒数が減少したため、市内の全域から通学を認める特認校制度を平成19年度から実施しました。主に地域の特色である自然豊かな学校での教育を目的として来ていただくもので、令和2年度では全校児童96名のうち65人が校区外からという非常に多くの児童の通学があり、減少対策と

して一定の成果が上がっていると考えています。こういうものを他の学校に当てはめていくという方向も考えられます。

もう1点、本市の抱える課題である不登校問題対策です。京田辺市の小学校では不登校の児童数の増加傾向が続いています。出現率も平成30年度から国・府の出現率を超えていました。中学校は、人數的には増減を繰り返していますが、出現率自体では、減りが著しかった平成30年以外は国・府の出現率を超えている状況です。

課題としては、不登校の児童・生徒数の減少、出現率の低下を図ることです。

本市の取組としては、適応指導教室「ポットラック」や臨床心理士を中心とした学校サポートチームによる支援、小学校では臨床心理士による月1回の教育相談、中学校では週1回のスクールカウンセラーの活用、学びの生活アドバイザーの活用、校内学習・研修の講師に臨床心理士を派遣、教育相談担当会議の開催等が挙げられます。

教育長 不登校の出現率の単位が入っていないですが、どういうことを表しますか。

こども・学校サポート室総括指導主事 全児童・生徒数に対して何人不登校の生徒が出たという率で、%になります。不登校生徒の定義は年間30日以上です。

藤原委員 京田辺市の数字は出ていないのですが、それは幾らですか。

こども・学校サポート室総括指導主事 小学校の平成28年度が0.49%、平成29年度が0.50%、平成30年度が0.71%です。中学校は平成28年度が4.61%、平成29年度が4.36%、平成30年度が2.94%です。

藤原委員 中学校が減って小学校が増えているということですか。

こども・学校サポート室総括指導主事 令和元年度が、小学校は0.87%、中学校が3.69%です。令和元年度の府と国の数値は10月位に公表される予定です。

教育長 本市の大きな特徴として、人口はここ数年増加傾向で、併せて児童・生徒数も、現在のところは増加しています。ただ、地域によって差があり、住宅開発され增加のところは教室が足りず、手狭な中で十分な教育活動ができないような部分もある。逆に児童・生徒数の減少のところは、空き教室を有効に使うことはできるが、学年に1クラスとか、その1クラスも人数が少なく、集団としての教育活動がうまくいかないことがあります。

西村委員 大住小学校では、去年、1クラスで20数人になっている。減少傾向の下のピーケでどれぐらいの差ができるのかという客観的な資料をもとに整理すべきと考えます。

また、校区選択制度というところも含めて、小規模校とはどれぐらいの規模を想定しているか、その辺りを説明いただけますか。

教育長 減少の地域の児童数は。

教育部副本部長 子ども人口推計を平成25年に作成し、平成30年度に時点修正しています。作成期間は令和20年度までですが、大住小学校でいいますと、最大が今年度で238人、最低が令和20年度で165人になっています。小学校全体では、令和15年の3,986名で、本年度で4,292名ということで推計しています。

西村委員 教育委員会として、学校の適正規模や、5つの地域分けは存続していくのかなど、市の方針の説明が必要と思います。

教育部長 旧村の小学校を基幹としていくのか、急増している学校をどうしていくのかとい

うのは非常に難しい話だと思います。教育委員さんから、例えばこういう視点で学校の在り方を考えるべきだとかというご意見を頂けると我々としては助かります。

藤原委員 適正な児童・生徒数の規模を想定した議論をするのか、それとも今ある学校を前提に議論をするのかで全然違ってくると思います。だから、その辺りターゲットを決めなければならぬと思います。それからこの特認校制度は、認可を得るときに、ただ単に廃校を避けるためにというのは非常にネガティブな理由だと思うので、その地域が非常に自然豊かな地域であるとか、子どもへの個別の対応ができるとか、カリキュラムにも特色性があつて初めて認められると思います。普賢寺の特色はやはり自然豊かで非常に細やかな指導ができるということですので、このままで増えていくと、魅力がなくなる可能性がある。なので、特認校は特色あるカリキュラムと一緒にしないとダメだと思います。

中学校でも、例えば今、G I G Aスクールの話が出ていますから、I C Tに特化するような授業科目があるとか、学習指導要領で出ているS D G sを探求するような授業科目があるとか、それがしかも小中一貫でできるとか、そういうことがあって初めて選ばれる学校になると思います。数字合わせにしない方がいいと思います。

教育長 G I G Aスクールのことが出ましたけど、その辺は何かないですか。

教育総務室担当課長 特色ある学校の幾つかの選択肢の中で、I C T教育を充実した学校というところも挙げられるかと考えています。

公立学校では今のところあまり事例がないのですが、私学の奈良育英学園中学校で文化系クラブとして情報技術部を設置し、プログラミングや学校行事の動画編集を始め令和2年1月からeスポーツ活動をしているという事例があります。また、G I G Aスクールで全国的にW i -F i環境やタブレット端末が整った状況の中で、さらにどのようなことが考えられるか、広く情報収集していく必要があると考えています。

上村委員 特色がある学校にしていくには、まず今ある課題を改善しないと魅力はなかなか出てこないと思います。三山木小学校や田辺中学校が仮設校舎に莫大な予算を使っています。ハード面にお金を使うのも仕方ないのですが、ソフト面に対して予算を投入することにより今の問題を解決して、そこから特色のある学校づくりをしていかないと、なかなかたどり着かないような気がします。予算が難しいですが、中学校だと、府立とか国立に、あるS S HとかS G Hの指定校のような学校にするにはやはりいい先生なりいい設備がないとできないと思います。そんな特色づくりをG I G Aスクールを利用してやっていければどうかと思います。

教育長 今G I G Aスクールは横1列になっていますが、さらに特色を出すにはいろいろな研究をして、ソフト面もハードも含めて予算が必要になります。

藤原委員 京田辺市は7万の人口規模で教員の数も限られるので、文科省の開発指定を受けるのは大変だと思いますが、教育委員会として研究指定するというのは今までありました。今考えられるソフトの特色としては、今回総合的な学習が「探究」になり、指導要領にも「探究」という言葉が出ていますし、探究をキーワードにしてG I G Aスクールの資源を使い総合の学習をしていくようにすると特色ができると思います。高校では堀川高校がいち早く探究という科を作つて有名になりましたが、そういうように生徒像をしっかりと示

して、来てくださいというのがいいと思います。

伊東委員 校区編成となるとなかなかできないところもある。英語教育やＩＣＴに特化した学校づくりをして、その学校の魅力を出すことで、周辺の開発もされ人口がそこへ動いていけばいいかなと思います。特認校制度のことで、児童が増えてよかったですという面もありますが、地元の人間には来てもらう人を選べないということがあります。様々な特色のある家庭の方が来られ、地元のいい部分が消されてしまうところもあり、現におられる保護者の方々も、私自身も13年間、かなりいろんな方と接して苦労した面もあるので、人数が増えたという部分では成功なのかもしれません、本当にその地域の人にとってよかったですのかというと、私の中では疑問が残る部分もあります。廃校にしてしまうのは、やはり一番避けなければならぬと思いますが、普賢寺小学校の特認校制度は実際始まっているので、これからも、教育委員会と連携を取りながらいい学校を目指していくかなければならないと思います。今度2校目の特認校というときには、地元の人が本当にそれでいいのかとか、どんな子どもをその学校が欲しがっているのかとか、いろんなことを慎重に考えないと、現場の先生も、地元の人も大変だと思います。本当にその学校に行きたい、その勉強がしたいと思ってもらえるような学校づくりをしていくべきだと思います。

西村委員 京田辺市という視野で考えていくのか、1校単位から考えていくのか、もう一つ、個々の先生方の教育力が向上しているのか疑問です。私が現役の頃は、2年に一回研究発表会をしていました。現在、前教育長がされたモデル校事業4か年計画以降は実施していない。山城教育局のリーフレットに、京田辺市の指定校がひとつもなかった。特色を論じる前に教員が教育力を持つ必要があると思います。

藤原委員 減少地域にある学校の小中幼の接続性を重視した特色あるカリキュラムを授業研究していくのがソフトに対するお金のかけ方としていいと思います。教育課程として組みやすいのは総合をコアにしてやっていく授業カリキュラムです。

教育長 研究指定の関係で何かないですか。

教育指導監 山城局の指定を受けている小学校はあります。府の方に手を挙げている学校もありますが、選考から落ちてここ数年は指定を受けていません。平成26年度から平成29年度まで京田辺市で教育実践モデル校事業を実施し、それぞれの学校で行いました。その後、予算がなかなかつかない状況もあって、それ以降は、それぞれの学校で研究を進めていることについて、校内研修会や発表会に積極的に参加をしていく形を取っています。

西村委員 研究指定校は、以前は国から府へ来て、府で調整され市町に下りてきて、市町でどこかにお願いするというような形でしたが、今は手挙げなさいという話ですから、教育委員会の支援がないと難しいのではと思います。

教育指導監 働き方改革の関係もあり、研究指定が減ってきてていると思います。府がされる分については手を挙げた学校もありましたが、なかなか選考で入れないという現状です。

藤原委員 今年はこういう状況ですので、研修が難しいですが、来年以降の課題ですね。

教育長 事務局の方でいただいた意見を調べ、次回何か提案があればしていただけたらと思いますが、それでよろしいですか。ほかに何か質問等あれば。

藤原委員 コロナ明けで不登校だった子が出てこられたという事例はありましたか。

こども・学校サポート室総括指導主事 登校してきたという事例が報告されています。ただ、校長先生に聞いていると、最近は少し息切れしてきた感があることも事実です。

教育長 全国的な傾向として、学校を再開したときは、不登校傾向にある子も来ていた。それが息切れなのか、不適応を起こしているのか、調べていかないといけないです。

西村委員 ポットラックはそこに来て初めてケアが受けられる形です。臨床心理士さんも学校におられますぐ、家に出向くというのはあまりないです。府に脱ひきこもり支援センターがありますが、そこでは来所のみでなく、訪問相談も行い、来所出来ない相談者とも、繋がりを持ち、相談活動を進められていました。今後、家庭回りをする相談員のようなものも、京田辺市のように不登校児童・生徒が多いと議会でも言われている中では考えていべきかと思います。

教育長 ポットラックの1日平均利用数はどうですか。

こども・学校サポート室総括指導主事 昨年度は16名でしたが、現在は5名です。

西村委員 毎日来られているのですよね。

こども・学校サポート室総括指導主事 毎日とはいえないときもあり、場合によっては昼から学校に行くので、今日は休むというケースもあるようです。

教育長 ほぼ同じ子どもですか。登録は16名ですか。

こども・学校サポート室総括指導主事 そうです。登録自体が今は5名で、令和元年度は最大で16名です。ポットラック自体が学校復帰を基本に考えているところで、新学期が始まったときにはまず学校で過ごせるようにという働きかけでスタートしており、最初の方は5名となっています。

藤原委員 他市町と同じようにサポートチームもあるし、臨床心理士も置いているし、ソーシャルワーカーもいるのに、何故減らないのかということになりますと中身の問題だと思うので、減っているところと増えているところを比較するのがいいかと思います。もう一つは30日以上だと復学が難しいケースが多いと思います。それに至るまでの取組をどうするか。大体1週間ぐらいだと戻ってくる確率は高いように思いますが、教員とかスクールカウンセラーとか臨床心理士の人たちは、むしろその30日に至るまでの子どもへの対応が本当に大事かと思うので、それをしてると結果的には出現率が少なくなると思います。もう一つ、小中学校を過ぎたら管轄外ではなく、生涯にわたっての問題ですので、高校等進学のデータも基にしないと議論しにくいかと思います。

教育長 取組については他市と遜色なくいろんなことはしているけども、結果としてはなかなかうまくいっていない。取組の中身の検証も事務局の方でしていただき、報告を受け議論するということでよろしいですか。

伊東委員 教育委員をして1年半、不登校の数字を見てびっくりしました。京田辺市は多いと議会でも取り上げられていますが、国や府の平均より京田辺市の出現率が高い原因は何か、それを突き止めないと、いろいろ取組されてもなかなか難しいかと思うので、京田辺市の子たちの傾向が分かれば対策が練られるかなと思います。

藤原委員 例えば大規模校と小規模校で出現率が違うかどうか。

教育長 事務局の方で調べていただけたらと思います。ほかに報告事項等ありますか。

教育総務室担当課長 次の定例会の予定ですが、8月18日火曜日の午前を予定しております。詳細な時間、場所はまた決まり次第ご連絡させていただきます。8月18日は定例会のほかに、中学校の教科書採択の勉強会を行う予定です。

教育長 令和2年第7回京田辺市教育委員会定例会を閉会します。